

佐野元春

90年代オリジナル・アルバムをリマスタリング音源 & 高品質CD規格で再リリース！



2016年3月23日発売

名曲の宝庫、佐野元春 90年代アルバム

一般的に、佐野元春の音楽というと、「サムデイ」や「ガラスのジェネレーション」をはじめとする80年代の曲が語られることが多い。80年代、邦楽の価値観を覆し、時代のカリスマとなった彼の音楽は確かに衝撃の連続だった。

しかし、佐野元春のソングライターとしての真価は、むしろ90年代の曲にある。今回、佐野元春90年代の全オリジナル・アルバムが、名匠テッド・ジェンセンにより最新リマスタリングで蘇った。『タイム・アウト！』（1990年）・『スウィート16』（1992年）・『ザ・サークル』（1993年）・『フルーツ』（1996年）・『ザ・バーン』（1997年）・『ストーンズ・アンド・エッグス』（1999年）の全6作品。新旧ファンにとって、どのアルバムも新たな発見に満ちた素晴らしい仕上がりになっている90年代、言葉とビートを高い次元で昇華させ、文学的な世界観に深くシフトしていった佐野元春。今回再リリースされる6作品には、今も心を揺さぶる名曲の数々がある。

時代の流れに捉われず、常にオルタナティブな精神でメインストリームを駆けぬけてゆく佐野元春の90年代を心ゆくまで聴いてみよう。彼の90年代が深く語られる時がようやく訪れた。

挑戦の連続の中で生み出された6作品、トータル・セールス100万枚超

ザ・ハートランドの解散をはじめ90年代は佐野元春にとって最も激動の時期だと言える。この時期、創作活動以外でも、来たるべき時代を捉えたインターネット・ライブやオフィシャル・ウェブ・サイトの立ち上げ、初の全国ネットTV番組への出演、渋谷でのゲリラ・ライブなど、彼の衝撃的かつ挑戦的な活動は数えればきりが無い。こうした中で生み出された6作品のトータル・セールスは100万枚を超える。80年代アルバムと何ら遜色ない実績を挙げていることも事実である。

<商品概要>

- 規格: CD (Blu-spec CD2 (高品質CD) 規格)
- 価格: ¥2,000 + 税
- 品番: 各タイトル内容欄に記載
- 発売元: ソニー・ミュージックダイレクト

●ソニー・ミュージックダイレクト運営「OTONANO」サイト

<http://www.110107.com/>

●佐野元春オフィシャル・ファン・サイト【Moto's Web Server】

<http://www.moto.co.jp/>

【再リリースタイトル内容】

『タイム・アウト！』(MHCL 30350) 【オリジナル発売日：1990 年 11 月 9 日】



- 1.ぼくは大人になった/2.クエスチョンズ/3.君を待っている/4.ジャスミンガール/5.サニーデイ/6.夏の地球/7.ビッグタイム/8.彼女が自由に踊るとき/9.恋する男/10.ガンボ/11.空よりも高く

「等身大の佐野元春」が放った、時代と自己へのアフォリズム

自らの思考をストレートに表現した 90 年代を飾る 7 枚目のオリジナル・アルバム。本作では、自らの音楽的欲求や精神的な関心事に正面から対峙し、細部にこだわることなく素直に表現していることから「ホーム・アルバム」と自称する。

作品的にはその後の 90 年代作品を貫く「慈悲」という視点とその延長にある「寛容」の精神が垣間見え、ソングライターとして、その大きなテーマを意識した最初のアルバムである。サウンド的にも、ザ・ハートランドとのストレートなバンド・サウンドに徹し、自分たちの等身大の気持ちに合ったアナログ・レコーディングとなった。タイトルは当時(バブル終演期)の情勢に警鐘を鳴らす意味を込めて付けられたという。本作ラスト・ナンバーが次作『スウィート 16』につながっているという仕掛けも…。

『スウィート 16』(MHCL 30351) 【オリジナル発売日：1992 年 7 月 22 日】



- 1.ミスター・アウトサイド/2.スウィー16/3.レインボー・イン・マイ・ソウル/4.ポップチルドレン - 最新マシンを手にした陽気な子供達/5.廃墟の街/6.誰かが君のドアを叩いている/7.君のせいじゃない/8.ボヘミアン・グレイブヤード/9.ハッピーエンド/10.ミスター・アウトサイド(リブリーズ)/11.エイジアン・フラワーズ/12.また明日...

明るいう陽光が射すまばゆくてせつない「青春」アルバム

様々なものの見方を一枚一枚重層的に重ねていく佐野のポップ・ソングに対する理想的な創作アプローチを、ジャケットのメインヴィジュアルとなった“(チェリー)パイ”になぞらえた。ロマンチックなまでにストレートなロックンロールと、ゆるやかなサウンドの枠組みの中で叫んでいるようなバラッドの2タイプの作品がアルバムの軸となっており、どちらも若々しい純粋さと熱意、時を経たロマンチストたちが等しく抱え込んでしまう苦悩や矛盾を浮かび上がらせる。

レコーディングに1年半を費やし、途中「See Far Miles Tour partI」を決行、そしてレコーディングに戻るとテンポ・アレンジ変更し再録音された曲も。佐野自身が経験した「青春」という素晴らしい一瞬の時代に対するオマージュとも言える作品。第34回日本レコード大賞「優秀アルバム賞」を受賞。

『ザ・サークル』(MHCL 30352) 【オリジナル発売日:1993 年 11 月 10 日】



1.欲望/2.トゥモロウ/3.レインガール/4.ウィークリー・ニュース/5.君を連れてゆく/6.新しいシャ
ツ/7.彼女の隣人/8.ザ・サークル/9.エンジェル/10.君がいなければ

無垢の円環 93 年。ザ・ハートランドとの最高傑作アルバム

アルバムを貫くシャッフル・ビート、ソウルやゴスペルのような力強い節回し、そして説得力のある歌詞と熱意のこもったヴォーカル。ソングライティング、サウンド、プレイ、そして時代との整合性、これらがすべて高い次元にある極めて完成度の高い作品である。“人間の無垢な感情（イノセンス）は、決して成長と引換えに失ってしまうものではなく、大きな円環（サークル）の中で受け継がれてゆくものなのだ” が本作のコンセプトでありタイトルにもなった。

詩はさらに哲学的な洞察力を増している。レコーディング前にプリプロダクションを入念に行い、メンバーの曲に対する理解を深めたというエピソードも。英国のベテラン・オルガン・プレーヤー、ジョージ・フェイムが参加。トラックダウンはロンドンの AIR Studios で行われた。ロックンロールの直接的な表現にあふれていた『スウィート 16』と対を成すアルバムとも言われている。

『フルーツ』(MHCL 30353) 【オリジナル発売日:1996 年 7 月 1 日】



1.インターナショナル・ホーボー・キング/2.楽しい時/3.恋人達の曳航/4.僕にできることは/5.天国に続く芝生の丘/6.夏のピースハウスにて/7.ヤァ！ソウルボーイ/8.すべてうまくはいかなくても/9.水上バスに乗って/10.言葉にならない/11.十代の潜水生活/12.メリーゴーランド/13.経験の唄/14.太陽だけが見えている -子供たちは大丈夫/15. 霧の中のダライラマ/16.そこにいてくれてありがとう -R.D.レインに捧ぐ/17.フルーツ -夏が来るまでには

佐野元春流「ホワイト・アルバム」

ザ・ハートランド解散後、全魂を込めて制作された佐野元春の傑作アルバム。新たなバンドを求め模索する中、初めてソロ・アルバムを作るつもりでレコーディングされたと言われている。佐橋佳幸・井上富雄・Dr.KYON をはじめとする優れたスタジオミュージシャンや若手バンド「プレイグス」による演奏も収録、スカパラホーンズも参加とサウンド面でバラエティに富んだ。

佐野が持つ音楽的なすべての引き出しを惜しげもなく広げたようなバリエーション豊富な極上の楽曲、詩も様々な視点で作られ、それが「日本語で楽しめるアルバム」となり、これらを通じて稀代のソングライターとしての佐野の価値を再認識させた。本作品の参加ミュージシャンたちが、“ザ・ホーボー・キング・バンド” となる。

『ザ・バーン』(MHCL 30354) 【オリジナル発売日:1997 年 12 月 1 日】



- 1.逃亡アルマジロのテーマ/2.ヤング・フォーエバー/3.7 日じゃたりない/4.マナサス/5.ヘイ・ラ・ラ/6.風の手ひらの上/7.ドクター/8.どこにでもいる娘/9.誰も気にしちゃいない/10.ドライブ/11.ロックンロール・ハート/12.ズッキーニ -ホーボーキングの夢

佐野元春&HKB による、確信に満ちたリアル・ロック・アルバム

ツアーを共に行なってきたバンド「ザ・ホーボー・キング・バンド」を率いて、ロック音楽の聖地 米国ウッドストックにてレコーディング。共同プロデューサーに「ザ・バンド」のプロデュース等で知られるジョン・サイモン氏を起用。ザ・ホーボー・キング・バンドのダウン・トゥ・アースなサウンドが見事に炸裂している。「ザ・バンド」のガース・ハドソンや「ラヴィン・スプーンフル」のジョン・セバスチャン等も参加し、最高のセッションを実現させている。

「バーン」とは「納屋」のこと。ジャケットに写っている納屋を改装したスタジオが使用された。満天の星空、戯れる鹿、焚き火を囲む食事、3 週間に渡る合宿レコーディングはバンドをより強固なものにし、最高のバンド・サウンドが生まれた。フォトグラフィー・ジャケットデザイン等も併せ、70 年代の良質な米国ロック音楽に敬意を表し、確信を持って完成させた会心作である。

『ストーンズ・アンド・エッグズ』(MHCL 30355) 【オリジナル発売日:1999 年 8 月 25 日】



- 1.GO4/2.C'mon/3.驚くに値しない/4.君を失いそうさ/5.メッセージ/6.だいじょうぶ、と彼女は言った/7.エンジェル・フライ/8.石と卵/9.シーズンズ/10.GO4 Impact

80 年代、90 年代を駆け抜けた元春のポップセンスが凝縮

80 年代・90 年代と佐野元春が先駆的に追求してきた'ビート-言葉表現'におけるひとつの到達点がここにある。約 20 年間の創作のエッセンスが凝縮されたアルバムとも言える。創作方法として先を見据え自身のプライベート・スタジオを使ったホーム・レコーディングによる最初の作品。。

タイトルに対照的なワードを用い、力強さと脆弱さが表裏一体であることを表現している。めまぐるしく時代と環境が変化する中で、次世紀に向けた新たな世界観、新たな警鐘が見え隠れする。EPIC レーベル期最後のオリジナル・アルバム。